

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400058		
法人名	社会福祉法人安代会		
事業所名	グループホーム やがみ		
所在地	〒028-7604 岩手県八幡平市丑山口28-1		
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果市町村受理日	令和8年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・春は小学校の運動会応援や施設周辺の散歩で季節を感じ、夏は裏の畑の野菜収穫を楽しみおやつ作成、午前中は皆さんで動画体操に参加。秋はのんびりやがみ山や周辺の紅葉を楽しみ、冬はゆったりとした大きめの浴槽で足をのばし入浴時間を堪能でき、四季折々の楽しみ方がある施設です。利用者年齢層は93歳から70歳と幅が広く、昔の事柄から最近の話題まで会話が豊富な茶話会(10時.15時のお茶の時間)が日課です。4年ぶりに家族外出(お盆限定)を企画し、ご家族の協力により5世帯のご家族が各々のお墓やご実家で、ご先祖様に手を合わせる事ができました。
 ・三食の食事は外部(日清医療食品)提供。水分や捕食として10時.15時の茶話会を活用。少しでも地域の味や季節の食材を取り入れたおやつを提供したい思いから職員が各々工夫し視覚や味覚で季節や懐かしさを感じれる工夫を心がけています。
 ・認知症からの帰宅言動や不穏言動が聞かれれば、職員が率先して近隣のドライブやお散歩を声掛けています。もう少しでも〇歳だが『まだまだ働きたい』その思いを大切にし職員の掃除・洗濯・食事準備等をあえて一緒に参加して頂き、ここの生活に必要な方だと意識づける言葉がけに取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東北自動車道山山パーキングの近傍にあって、背にする米代川の向こう岸には田山スキー場がある自然環境豊かな場所にある。法人の特別養護老人ホームや他の福祉施設、消防屯所、国保診療所が集まる国道282号線沿いの田山地区の中心部に位置している。法人の理念「一生も、一瞬も。」を基本に、職員で話し合い「皆様の個々を尊重し笑顔の絶えない支援を目指します」との事業所目標を掲げ、職員と管理者が目標の達成に向け、つながりと助け合う気持ちを大切にして、利用者が日々ポジティブな気持ちで心地よく楽しく過ごせるよう努めている。また、介護の重点を「想いを話で聴く」こととし、その想いに添うことで利用者を笑顔にする支援を行っている。更に、利用者を対象に隔月でアンケート調査を行い、各地域それぞれに催されるお祭りになどに、希望する利用者全員が見学やドライブに出かけ、運営推進会議の委員からは、利用者の気持ちに添った支援との高い評価を頂いている。加えて、地域との関係を意識した取り組みを進め、利用者がより楽しく、安心して生活できる環境を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 			

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安代会の理念は、ご利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、心の通うケアを提供することです。具体的には、「一生も、一瞬も。」という言葉に象徴されるように、ご利用者の人生の一瞬一瞬に寄り添い、その人らしい生活を支えることを目指しています。今年度は『皆様の個々を尊重し笑顔の絶えない支援をめざします』と目標を掲げ職員と管理者が共有する事で利用者が心地よい暮らしを継続できるように努力している。	法人の理念「一生も、一瞬も。」を基本に、職員で話し合い「皆様の個々を尊重し笑顔の絶えない支援を目指します」との事業所目標を掲げている。職員と管理者が目標の達成に向け、つながり助け合う気持ちを大切に、利用者が日々ポジティブな気持ちで心地よく楽しく過ごせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	長期的なコロナ禍もあり感染対策上施設内外においても地域の方々との交流する機会が減少しているが、訪問理美容、園庭草取りや軽トラ市、各地区の祭り(4か所)見学に参加できている。地域交流スペース開放・貸出しも検討したが高齢者施設の為感染対策上難しい。近隣のブルーベリーの摘み取り体験、自宅周辺ドライブを積極的に取り入れ地域とのつながりを大切にしている。	自治会に加入していないが広報誌の配布がある。事業所は地域交流スペースの開放、貸出しも検討したが感染対策上断念している。近隣のブルーベリーの摘み取り体験や軽トラ市、各地区の祭り(4か所)を見学したり、自宅周辺のドライブを積極的に取り入れ、コロナ禍で希薄になった地域との関係を再構築しようとしている。また、田山地域に居住している職員を通じた交流を模索したが、10カ所以上ある地区が離れていることもあり、そこを起点とした日常的な交流は難しい環境にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行政、在宅介護支援センター主催の『認知症カフェ』への会場提供等、情報共有や情報の発信に継続して取り組んでいる。職員も近隣地域の認知症カフェに参加したり、認知症サポーター養成講座研修に参加している。地域事業参加としては毎年10月は商工会主催の『チャレンジデー』ラジオ体操に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回開催で計画。事業内容を詳細に報告し、意見を伺い透明性のある運営推進委員会を目指している。職員へは書面で内容、結果を共有しサービス向上に活かしている。活動内容は写真で様子が伝わるよう工夫している。R7年6月の会議でお盆外出の意見があがり、4年ぶりに実現した。推進会議開催で地域の情報を収集する事ができ、サービス向上に活かされている。	運営推進会議を2カ月に1回開催し、委員は地域住民代表、有識者、地域包括支援センター職員、駐在所警察官、利用者及び家族で構成され、地域の様々な情報がもたらされている。民生委員の参画については、働きかけているが協力は得られていない。開催月に合わせて、利用者が答えやすく今の気持ちを把握できる簡易かつ工夫されたアンケートを実施し、その結果を会議で報告している。詳細な報告を受け毎回活発に意見交換が行われている。会議結果は職員全員に回覧し情報共有を図っている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員として地域包括支援センターとの協働等で助言をいただき、日々の業務や行事に反映させるように心がけている。専門の部署にはその都度相談と協力を頂いている。市役所福祉部地域福祉課とは認知症カフェや、申請時、電話等で情報交換を行っている。生活保護受給者は2名入居しており、ケースワーカーとも情報共有している。	運営推進会議に地域包括支援センターも出席し様々な情報提供や助言を得ている。日常的に空床の問い合わせやシンポジウムの情報をいただくほか、地域ケア会議に参加し困難事例を紹介するなどして連携を図っている。市との窓口は管理者が務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束廃止検討委員会が法人全体で身体拘束しないケアに係わる取り組みを行っており、3か月で委員会を開催。管理者も構成員として参加している。事業所独自で『スピーチロック動画研修・言い換え言葉』等を実施し職員間で情報共有し、身体拘束のない環境を目指している。玄関施錠は安全管理上19時から翌朝6時までで宿直が戸締り確認後施錠している。	法人として身体拘束等の適正化を図るための指針があり、3か月毎に身体拘束廃止検討委員会を開催している。委員はケアマネジャー、看護師、各事業所の管理者、介護員で構成されている。研修は法人主催で年2回動画視聴の形式で行われている。スピーチロックについては、同じ単語でも言葉で利用者を括り付けるような話し方をしないことを管理者は職員に徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	人権擁護に関しては「虐待防止検討委員会」を中心として法人全体で取り組んでおり、情報共有している。高齢者虐待防止についてや、倫理・法令遵守についても研修会を実施。職員間でもやがみ会議等で生活の中で虐待となる行為はないか、見逃していないか話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	同上的内容ではあるが、言いやすい環境づくりに取り組み、情報提供・共有を図っている。昨年から引き続き1名の方の成年後見人制度の申請段階まで進んでいる。ご家族・司法書士・病院関係者・ケースワーカーの方々と連絡を密に取り合い進めている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設紹介の資料にホームページ等を活用し分りやすく説明し対応。合わせて契約書に関しても確認、傾聴しながら説明。GH独自のパンフレットを活用し、経済的な情報等を含め不安の解消・理解・透明性を念頭に取り組んでいる。改正時はその都度、文面と口頭で説明を行っている。申し込みの時点で施設見学を推奨させていただき、アセスメントの際は利用者・ご家族の不安や疑問を話しやすい環境で行うことができるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者においては奇数月のアンケートで意見を傾聴しなんでも言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている。ご家族においては運営推進会議への参加や面会時、個別の「活動日記」を活用し意見や要望を確認している。玄関には意見箱を設置している。短期目標更新時(概ね6か月)担当者会議を開催し出席できなかったご家族には写真付きのお便りで現状をお伝えしている。	利用者には隔月でテーマを決めて聞き取りによるアンケート調査を行い、各地域それぞれに催されるお祭りに希望する利用者全員の見学やドライブが実現し、報告した運営推進会議の委員からは、利用者の気持ちに添った支援を引き続き期待するとの高い評価を頂いている。家族には写真を多く掲載した利用それぞれの「活動日誌」に意見欄を設けてお届けし、また、電話での連絡の際にも意見を伺うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営会議・各種委員会活動、事業所の毎月の職員会議、日々の業務申し送り、人事考課の際には意見交換等その機会を多く持っており、職員全員が関わる体制づくりを行っている。やがみ会議は月半ばの運営会議後の水曜日と決め、法人全体の情報を共有している。年2回の面談以外にも、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり会話ができる場面を意識して創るようになっている。	職員には修繕カ所等があった場合には直ぐに話すように伝え、利用者のケアや職員による支援に支障のないよう努めている。年2回の個人面談では職員の困りごとの他に個人目標も把握しており、管理者は、利用者に満足してもらいたい等とするポジティブな指向が職員に目立つとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の年2回人事考課実施要綱等の取り組みあり、事業所管理者が面接し、さらに施設長との面接がある。加えて法人の衛生委員会や各事業所において職場環境や勤務状況等が協議され、運営に反映されている。衛生委員会からの労働環境情報を休憩室に掲示し活用している。職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の研修計画や要綱があり研修体系や、資格取得支援制度の自主研修経費の助成制度、職専免等の優遇措置がある。事業所独自の動画研修を実施しており、知り得たい知識や技術を動画を通して共有できるように努めている。希望を確認し外部研修にも派遣している。内部研修は各委員会が中心となり定期的に行っている。今年度は1名の方が採用されている。介護現場経験者との事で、チューター制度は取らず利用者とのかわり方についてその都度その都度、場面での丁寧な指導を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人の研修会や県、地域ブロック研修会の参加がコロナ禍で研修形態に変化あり、動画研修によりネットワークを通じ今後も質向上につながる研修も計画している。いわて地域密着型サービス協会に登録はしているが、当事業所からの研修参加は中心部への距離もあり研修そのものに参加はできていない。八幡平市内にもグループホームはあるが、交流機会をつくれていない。今後は同業者との交流に取り組んでいきたい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時にこれまでの生活歴や希望を伺い、生活支援計画に取り入れている。入居前の施設見学時にご利用者の面会を希望させていただき、面談時に困っていることなどを十分に確認し支援につなげるようにしている。入居後は少しでも生活に慣れていただき安心して生活できるように配慮している。継続の対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申込みの際、ご家族の要望、困りごと、金銭面、医療面を確認し ご本人の意向も大切にしながら、どのような生活を送っていただきたいかもご家族からも伺っている。入居数日間は出来るだけ電話でご様子をお伝えするようにしている。ご希望があれば、電話で利用者様とご家族がお話をできる時間を設けている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族双方のお話する時間を設け関係機関(担当ケアマネ・入院先の相談員等)からの情報も収集し、できるだけ要望に応えられる様に努めている。状況により他のサービスを検討するなどの助言も行っている。ご本人、ご家族から細かくお話を伺い、今の状況『その時』に合わせたサービス利用ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の新聞読み聞かせやアンケートで、一人ひとりの申し出や要望等を受け止めている。食事準備、片付け、洗濯、掃除など無理のない範囲で利用者と職員と一緒に日々行えている。野菜作りも、日常の生活の会話から昔の知恵や工夫を茶話会等で引き出し、日常に活用する場面がある。ここでの生活は『家族である』という意味合いを言葉にして日々過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との絆を大切にできるよう、遠方在住ご家族への配慮を含め「活動日記」で暮らしの情報提供を行い、定期受診後の利用者の様子を電話でお伝えし、ご家族からサポートを受けながら利用者を支えていけるように努めている。面会時は家族写真を撮りお部屋に貼る事で、ご家族との絆を近くに感じていただければよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用している商店に出かけてみたり、地域の祭りや地域の行事等では家族・親戚・知人・友人との再会があり、馴染みの関係を意識した行事に継続して参加している。今年はお盆外出を支援し、5世帯のご家族が実現できた。利用者の病院受診も在宅での病院を継続受診できている。理髪店支援も継続して新しい馴染みの関係性ができ始めている。	過疎地であって、近隣の地区が遠く日常的な交流は難しい環境にある。知人や近所の方が事業所に訪ねてくることはないが、隣人の方がブルーベリーの摘み取り体験に誘ってくれたり、昔から利用している商店に出かけたりしている。地域の祭りや地域の行事は、普段会えない親戚や知人、友人と再会できる機会になっている。また、盂蘭盆の帰宅の際には、家族が迎えに来てくれたり、親族が集まって待っていたりと、事業所の企画は利用者にとって掛け替えのない一日を生み出している。2か月に1回来所する理髪は利用者の馴染みとなってきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の茶話会では季節折々の思い出話や体験・経験談を笑いを含めて談話されている。職員も利用者の輪に入りここでは家族と思えるような関係づくりに力をいれている。職員も個々の生活や得意分野、身体レベルを把握することでトラブルを防いだり、孤立することなく会話を楽しみ生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	問い合わせがあればその都度対応している。半年以上入院した方がもう一度入居したいと申し込んだ事例もある。入院先の相談員、ご家族の相談に努めている。法人内の施設に入所した際も相談員・ケアマネ・医療従事者と情報交換し各事業所とも相談が行える状況にある。その際にご家族からの承諾をとり情報提供を共有し、ご家族へのフォローも確認している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アンケートや個別聞き取りで一人ひとりの希望、要望、意向等確認している。あえて「不快だったことや職員への嫌なこと」なども確認し個々を尊重し、職員からの一方的なものとならないように取り組んでいる。入居したばかりの時はなかなか思いを言葉にできない方が多いので、時間をかけ、場面を変え散歩、入浴時なども活用し、内容によってはご家族に相談しながら思いや意向の把握に努めている。	事業所として、介護の重点を「想いを話で聴く」ととし、その想いに添うことで利用者を笑顔にする支援を行っている。利用者の笑顔の絶えない支援を目指す事とする事業所目標の実践でもある。利用者の思いや意向の把握は、入浴、散歩、ドライブなど職員と1対1の際に、「答えが出る問いかけや自己決定しやすい言葉かけ」を意識しながら行っている。2か月に1回の利用者アンケートも利用者の意向を簡便に反映出来るよう工夫され、家族と話す場合も利用者の「ひもとき」とし、視点の中心に利用者を置いているとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	朝の起床から各々のペースがあるので、職員間で共有できるよう夜間帯の様子をケース記録している。思いや要望、不安や怒りを伺える時は、信頼関係を大切にしながら内容把握に努めている。入居されている全員がある程度意思疎通が可能なので、たくさんの言葉や表情、行動から汲み取れる思いを尊重し、職員からの一方的なものとならない寄り添う支援に取り組んでいる。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	同上に加え、入居前の生活を本人や家族から伺う事を心掛けている。可能な限り馴染みのある生活を大切にその人らしさに寄り添う介護を目指している。会話の中で思い入れのある品物(写真・時計・置物)がある時はご家族に持参していただいている。共同生活の場なので心身負担やストレスが少しでも軽減できるように体調面、精神面での支援を継続している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の支援や情報・ご家族の要望・ご本人の思いや意見を聞き、計画・実行・評価・改善のPDCAに沿って原案を計画作成者が作成している。様子が変わらなければ、短期目標更新(概ね6ヶ月毎)に計画見直し時期としてご家族の意向(電話・面会時確認)、受診時の助言等も計画に取り入れている。担当者会議前は職員に聞き取りし意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。	計画作成担当者がアセスメントを行い、利用者それぞれが必要とする3、4項目の課題に沿った目標を選定し、職員の意見を加味して原案を作成し、家族に説明した上で成案としている。見直しは6ヵ月毎に行っており、家族の意向やかかりつけ医受診時の医師の助言も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、ありのままの言動や行動を記録しその背景に何があるのか職員で共有できる内容にし、ケース記載している。ご家族への報告の際も、確認資料としている。早急に解決したいケア内容の際は、朝・夕どちらかの申し送りでケース記録を印字し職員間で早急に確認・共有する対応をしている。記録の書き方などまだまだ課題があるので事業所独自の動画研修に組み込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	身体状態に変化があった場合、早急にご家族への報告や連絡を行っている。受診判断が必要と感じる時はできるだけ面会要請し、緊急搬送先や、受診先をご家族と一緒に考えている。お盆外出を今年度は試みたが、お盆期間が仕事のご家族にはお盆前後の面会や外出を提案。面会時にお天気がよければ施設の周りを散歩するなど臨機応変に対応している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域住民(各自治会・老人クラブ・婦人会・青年会等)でむつみ会を結成し、施設周辺の環境整備、避難訓練支援等の協力を頂いている。法人の豊富な情報に加え、運営推進会議構成員には地域包括支援センター職員や地域資源に精通した方々も含まれている。地域発行のチラシ、市広報も取り寄せ情報共有している。近隣駐在所警官にも推進会議に参加していただき、終了後利用者と談話する時間を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前に主治医確認しご家族のご協力が得られる際は遠方(盛岡)の受診通院も可能としている。希望がない、又は主の医療機関を持たなかった方は協力病院田山診療所とさせていただいている。受診後ご家族と連絡を取り、健康維持に努めている。そのほかの他科受診希望はその都度対応している。(耳鼻科・眼科・歯科)ご家族同行受診を推奨しているがご家族が遠方の為、受診後報告となっている。今年度は協力病院以外の遠方受診時の交通費自己負担を算定する事ができた。	入居前からの主治医に継続受診が3名、そのほか主とする医療機関を持たなかった方は協力病院の田山診療所で受診している。受診後は家族に報告し、健康維持に努めている。耳鼻科・眼科・歯科等の他科受診希望は、その都度対応している。ご家族同行受診を推奨しているが、家族が遠方の場合には職員が付き添い、受診後に家族に報告している。今年度から協力病院以外の遠方の医療機関受診には、交通費自己負担を重要事項説明書に明記し、家族から同意を得て負担していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所には看護師配置はないが、協力病院(田山診療所)看護師が相談対応に協力して下さる。受診時の職員の付き添い、同行受診において必要時は法人看護職より指導・指示いただいている。代理受診も含め、継続して適切な医療が受けられるよう協力病院、かかりつけ病院とは連携し、観察・報告・相談等情報共有しながら取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は2件入院支援があったが、どちらも入院時、入院期間内は管理者(兼:計画作成者)が直接病院へ出向き、病院関係者とカンファレンスを行っている。協力病院には毎月誰かから定期受診している。入院等受入れ可能な市立病院は母体施設の協力医療機関であり、法人の産業医、事業所の協力医療機関であり、常にその関係作りが行われている。医療相談室ともメール等で連携をとり情報共有させていただいている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や、終末期に対して地域的に医療体制が整っていない現実をご家族にお伝えし、ご家族の意向は入居時、介護保険更新時に再確認させていただいている。重度化しても医療的ケアを受けておらず経口からの摂取が可能であれば、その先をご家族と考えながら隣接する特養等のお話もさせていただく。職員は看取りという場面に遭遇する可能性も含め、研修は継続している。	入居時に看取りについては地域的に医療体制が整っていないことを家族に説明し、了解を得ている。食事が摂れない、浴槽を跨げない程度に重度化した場合には、法人の特養を含む他の施設に移ることや病院に入院することについて家族と話し合っている。終末期の研修を動画視聴を通じて行ったり、特養勤務の経験を持つ職員を配置し、できる限りの介護を行う態勢としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人の事故発生防止対応指針がある。事業所においても利用者それぞれにおいて、その急変時の対応を想定した緊急持ち出し用関係綴が準備されている。8月には事業所独自の「緊急時の対応に関する研修」動画研修として取り入れた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人に防災対策委員会が設置され、地域消防協力隊(むつみ会)を組織し、災害時の訓練が行われている。事業所においても年2回訓練を実施し、運営推進会議でも報告している。9月には市総合防災訓練に管理者が参加。今年度は実際に指定避難場所までの避難経路の確認も計画している。	年2回火災想定での避難訓練を実施している。法人として消防協力隊「むつみ会」を組織し、万が一の場合の協力体制がある。食料の備蓄は3日分、発電機も備えている。ハザードマップ上は特に心配はないが、敷地の南側に米代川があり、机上での災害想定の実践性について、管理者は理解している。	夜間の火災想定での避難訓練を実施しているが、事業所から一時避難場所までの避難時間の実測と課題を洗い出し検証しておくことが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員会議や日々の申し送り時に気になる事はその都度、その場で支援方法、表現方法、共通言葉を確認している。アンケートでは職員の言葉遣いや施設の日課・行事の良いところだけではなく不快なところやプライバシー配慮への確認を行っている。ご本人の気持ちを大切に考えさりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉がけをするように職員も努めている。	職員会議や日々の申し送り時にスピーチロックなどの声のかけ方や衣類を汚した際の支援の方法について、利用者の誇りやプライバシーを損ねない声のかけ方や支援方法を話し合い周知している。利用者に対する問いかけは、自己決定しやすい配慮している。本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけるように努めている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から、表情や、ご家族からの情報から得た思い、ご本人の希望や関心に添った「物・時間・場所」を引き出せる会話に努め、その思いを自己決定で表現できる支援を行っている。加えてアンケートをきっかけに全員の意見を抽出するなどの取り組みを行い、信頼関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	10時・15時の茶話会の時間は健康観察も兼ね水分を促し、その日のコンディションや様子をみながら本人のペースを大切にいただきそれに合わせた対応を心掛けている。入浴も気温や体調で曜日変更も可能としている。食事時間も1時間は取り置きできるのでその日、その時の本人の気持ちを尊重しただけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	選択肢を持てるように声掛けを行っている。着たい服を選びやすい、探しやすいようにハンガーラックを活用したり、担当職員が洗濯物返却時に一緒にタンス内を整理する光景が多くみられる。男性は髭剃りを習慣化させている。美容・理容業種の経験職員が入浴後におしゃれにヘアセットをする事が多い。敬老会では女性利用者全員が職員から化粧等の支援を受ける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在は三食、給食委託業者からの調理配膳で補っている。法人で食事サービス委員会を組織している。昼食の献立は委託事業者側も『旅するメニュー』や『日本昔話お膳』など、食時間を楽しませる工夫が盛り込まれている。おやつ時間は事業所独自で手作り料理等を取り入れ、畑で収穫した野菜を提供したり、季節折々の差し入れを活かした手作りおやつを工夫している。食前・食後・おやつ下準備の段階で、利用者の皆さんに参加していただき、毎食それぞれの役割をもって食事を楽しむ支援につなげている。	法人が給食委託業者と契約し、三食とも委託業者提供のものを盛り付け提供している。旬のものや食べたいものなど献立の希望は食事サービス委員会で話し合い、利用者が楽しめる食事の提供に努めている。誕生日には希望によりケーキなどを提供し楽しんでいる。おやつ時間は事業所独自の手作り料理とし、きりたんぼや手打ちそばを作ったり、畑で収穫した野菜や四季折々の差し入れを活かした手作りおやつを工夫して提供し、食事を楽しんでいる。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	R5.5～科学的情報システム(LIFE)開始、量や栄養バランス等の助言を施設栄養士にいただいている。毎月の体重の増減管理、1日の水分、毎食の食事は個別にシステム管理している。食事形態も職員間で確認し更に嗜好調査を実施。委託業者との給食会議に参加し、お一人おひとりの好みに合わせた食事・水分提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア見守り支援している。口腔衛生管理加算に係わるサービス提供を行い、毎月歯科医師・衛生士の回診指導を受け、必要な治療は協力歯科医のアオキ歯科にて訪問歯科等を受けている。食事前の口腔体操も兼ね歌を歌うなどで口腔ケアに配慮して取り組んでいる。部分入れ歯、義歯の方の夜間は義歯確認も兼ね、夜間は個々のケースに入れて預かり、週末に専用の義歯洗浄剤で洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	現在は布パンツ5名 リハビリパンツとパットを兼用が4名。定時の排泄支援と排泄介助が必要な方は7名。万が一に備え夜間は5名がポータブルトイレを準備している。排泄失敗を減らす工夫として職員間で『最終トイレは〇時〇分』とあえて言葉にし、ご本人には早めの声掛けをするようにしている。介助や支援を必要とする方の排泄数や排泄状況は個別にシステム管理している。	現在は布パンツ5名、リハビリパンツとパットの兼用が4名、定時の排泄支援と排泄介助が必要な方は7名となっている。万が一に備えて、夜間に5名がポータブルトイレを準備していたが、排泄失敗を減らす工夫として職員間で『最終トイレは〇時〇分』とあえて言葉にし、ご本人には早めの声掛けをしたことで3名に減るなど排泄の自立に向けた取り組みは順調である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防は主治医より指示を受け、排泄記録を確認し下剤の調整をしている。食事・水分等協議し日々の活動やテレビ体操等取り入れトイレでの自立排泄支援に取り組み、自然な形での排便ができるよう個別に支援している。水やお茶を好まない方が数名いる。医師確認のもと各々が好きな炭酸や果汁飲料、乳酸菌飲料、紅茶、珈琲等を家族に相談し持参して頂き、水分摂取と便秘予防に取り組んでいる。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	2つのグループに分け。週2回の入浴を確保している。白癬菌治療の為2名の方が毎日足浴を継続している。浴槽の温度、入浴時間を個々に合わせている。また外出や個々の要望に応える形で翌日・前日振り替えも実施している。脱衣場にタブレットを持参し入浴時間帯に好みの曲を流してみたりもする。入浴剤は事前に好みを情報収集し使用している。	月、木と火、金の2グループに分け週2回入浴している。入浴時間は概ね15分～20分程度である。また外出や個々の要望に応え、翌日又は前日に振り替えるなど柔軟に支援している。脱衣場にタブレットを持参し、入浴時間帯に好みの曲を流し歌を唄ったり職員との会話を弾ませたりと、楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中でも自由に休息できるように、声掛けはしている。特に朝食後や昼食後は30分程度の仮眠を好む方が多く、施設内も音や明かりの環境支援をしている。夜間就寝を強制せず、テレビを見たい場合や夜間の一人歩き等個々の行動を尊重し、かつ昼夜逆転しないよう支援している。それぞれ、その背景を配慮しながら安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診後の服薬処方箋(紙面)は職員全員が処方内容を確認できる場所にファイリングしている。変化があった際もその副作用等を確認し、申し送り等で繰り返し情報共有を図っている。職員間で薬管理担当も配置し残薬等の確認が誰でもできるよう次回受診予定日・残薬数を紙面化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アンケートの要望等で、個々の役割りや楽しみを確認し、職員で情報共有して支援している。毎日茶話会でも個々の習慣、希望、有する力を把握し支援につなげるようにしている。食事準備で盛り付け、食後の茶碗拭き、洗濯たたみ、床のモップ掛け、野菜収穫やカーテン閉め、手すり掃除、トイレ掃除等で日常の張り合いや役割感を感じとっていただいている。お願いできそうな仕事を頼んだ際は感謝の言葉を職員一同伝える様にしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お天気をみながら、近場や自宅周辺 馴染みのある地域、眺めのよい場所等に熊の出没を気にしながら支援を行っている。今年はお盆外出もご家族の協力で実現できた。職員確保が難しかったので近場や病院受診後の買い物等で外出支援となった。アンケートの継続で普段行けないような場所へも連れて行きたい思いから、方法を模索する事が外出支援の前進となっている。	天気の良い日には事業所周辺を散歩したり花壇や畑への散策に出かけている。また、利用者からの希望もあり、花見や紅葉狩り、スーパーへの買い物など積極的にドライブに出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	大半の利用者は、自身でお金を持ちたがらない。中には小銭程度自己管理する方もいる。今後も買い物や外出時には可能な支援をご家族と連絡をとりながら、希望に合わせた取り組みを行っていきたい。事業所としてはお金を管理することはない。その点は契約時にお話させていただき、紛失等のトラブルがないように気にかけている。先日旧札はもう使えないと思い込んだ方がいてゴミ箱に捨てた行為をたまたま職員がみつけ、職員多数で確認し新札と交換した事例もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方は2名。その他の方はご家族と話したい意向があれば、子機電話を使用しご家族・ご友人との会話ができる時間を設けている。お手紙に代わる「やがみ活動日記」で利用者自身のコメントやメッセージを聞き取り、写真を添えて支援に繋げている。6か月に1度の短期目標計画書作成時には、写真付きの最近のご様子を加えたお手紙を添え、ご家族の署名、捺印をいただくようにしている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	木造施設で県産材を使用し、施設特有の施設臭、閉塞感がない。トイレも動線の4ヶ所にあり、各居室より使いやすい位置にある。談話室には6畳間がある空間となっている。全居室にエアコン完備し年間を通し温度管理ができる。浴室・脱衣場にもエアコン設置、温度管理を行い快適利用できるように取り組んでいる。食事席においても個々の身体に合った椅子・テーブルを準備し季節に合った装飾を工夫している。職員も食後は除菌水で水拭き等の掃除をし居心地よく過ごせる工夫をしている。今年度も職員で障子貼りを試み、窓越しの景観をよくすることができた。さらに西日が強かったため西日側の2部屋に遮光カーテンを取り付け、居室で居心地よく過ごせるよう工夫した。	食堂兼ホールには、エアコン、床暖房、パネルヒーター空気清浄機が設置され、快適な空調環境が整えられている。6畳ほどの小上がりがありテレビを配置し、ソファもありそれぞれが好きなように過ごせる空間となっている。腰板が木目調で壁の色とマッチし清潔感が感じられる。壁面には四季や年中行事に合わせた作品が飾られ、季節感が感じられる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話、交流等自宅の居間をイメージする食堂ホールの他に地域交流スペースがある。このスペースは地域住民へ貸出しできる空間である。共用空間の食堂では10時や15時などそれぞれがテレビ前のソファ席やご自分の食事席に腰掛ける場面も多く見られるため、居場所づくりの場と捉えている。廊下にも長椅子を置いているが、お日様の暖かさや風の通り抜けを楽しみながら利用する方もいる。居室に友人を招き二人でベッドサイドに腰掛けおしゃべりしている姿もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室においては壁掛けのコルクボードが各居室にありその人なりの居心地良さを演出出来るよう個人の写真や装飾品の掲示板として使用できるよう工夫がなされている。所持品も人形やラジオ・テレビ・椅子・タンス・ハンガーラック等それぞれであり、ご本人とご家族が持ち寄った物で居室作りに取り組んでいる。お花好きの方の面会時に持参された生花を自宅から持ち込んだ馴染みの深い花瓶で、お部屋に飾ることができた。	居室には手すりが付いた電動ベッドとマットレス、洗面台、押し入れ、エアコンが備え付けられている。壁掛けのコルクボードがあり家族写真や作品などが飾られている。衣装ケースやぬいぐるみなど馴染みのものを持ちこまれている。本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は段差のない造りで、雪国には欠かせない足元を暖めるパネルヒーターも完備されている。トイレの動線(4ヶ所のトイレ)、性別区分した居住ブロック、入浴の安全の為浴槽手すり設置、滑り止め洗身場所、往来自由な広めの廊下、自動ドアの人感センサー等があり、安全で安心できる施設作りを目指している。夜間トイレまでの歩行が不安だと思われる方5名がポータブルトイレを設置し、ご本人の状況にあった対応を行っている。夜間はトイレまでの動線に足元を照らすセンサーライトを使用している。		